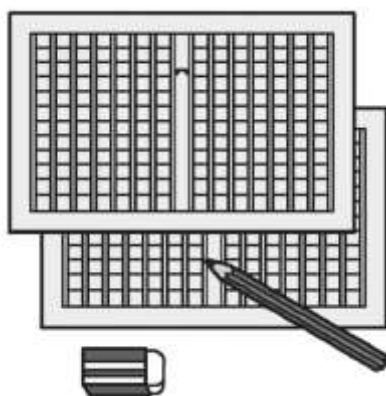


# 法に関する作文コンクール

## 受賞作品集 (平成27年度)



横浜弁護士会 法教育委員会

# 目次

法に関する作文コンクール テーマ ..... P 1

## 中学生の部

【最優秀賞】 選挙と代表者について ..... P 2

浅野中学校三年

木津 大樹

【優 秀 賞】 代表者の責任 ..... P 3～4

横浜市立洋光台第一中学校三年

小林 萌々

## <テーマ内容> 「選挙と代表者」について

日本をはじめ多くの国や地域では、人々が全員集まって話し合うのではなく、自分たちの代わりに話し合いに参加する人（国会議員など、代表者といいます。）を投票によって選び（選挙といいます。）、その代表者たちが会議（議会）で話し合っ、法律などの社会のルールやお金の使い道（予算）を決めています。

このように選挙によって選ばれた代表者が話し合いをして物事を決めていくという方法は、国だけでなく、都道府県や市町村といった地方公共団体や、町内会、皆さんの学校に至るまで、さまざまな場面で使われています。

このような方法によってルールやお金の使い道を決めることの意義（理由）や問題点（注意点）について、選挙や代表者に関する、あなた自身や身近な人の経験、日々のニュースで知った世の中の出来事、次の【事例】などを取り上げて（取り上げる経験や出来事は、一つだけでも、幾つかでもかまいません）、あなたの考えを自由に述べてください。

### 【事例】

X高校では、学校の備品を買うお金のうちの一部について、その使い道は、各クラスから選挙で選ばれるクラスの代表者が集まって話し合っ決めてことになりました。

X高校の生徒たち全体では、体育の授業や運動部の活動で使える運動用具を買ってほしいという意見が多数で、1年Y組でも、「運動用具を買うことにしたい」と約束したAさんが代表者に選ばれて話し合いに参加しました。

ところが、各クラスの代表者たちの話し合いの中で、3年生の代表者の一人が、「図書室の本が少なく、レポートを書くときに困っている。だから、本を買ったらいいのではないか」という意見を出しました。

代表者たちが時間をかけて議論した結果、代表者たちは、「生徒全体の意見とは違うけれども、図書室の本を買うことがみんなのためになる」と考え、図書室の本を買うことに決めました。

Aさんは、議論に参加する中で、「上級生になるとレポートの内容が難しくなるので、図書室にいろいろな種類の本が必要になるし、図書室に本がたくさんあることは自分たち1年生のためにもなる。1年Y組のみんなのためにもなるのだから、選挙のときの約束と違ってしまってもいい」と考え、図書室の本を買うことに賛成しました。

ただ、X高校の生徒たちの中には、代表者たちの決定が生徒たち全体の多数意見と違ってしまったことに納得していない人がいるようですし、お金の使い道は生徒全員が参加する話し合いで決めるべきだったと考えている人もいます。

また、1年Y組の生徒の中には、Aさんが約束を破ったことを快く思っていない人がいます。

## 選挙と代表者について

浅野中学校三年 木津 大樹

人々は全体のルールやお金の使い道について、様々な主張を持っている。皆の主張の全てが実現することはあり得ず、万人の主張が実現できる道など無い。特に重要な決定事項については個々の利害が大きく、決めることは容易ではない。多くの人々の間で物事を決定する一番良い方法は、全員集まって皆が納得できる方法を考えることだが、それは無理だ。話し合いや多数決と言う方法は物事を決めるために必要な方法であるが、人数が増える程、時間がかかる。一番困ることは決定できないということである。決まらなると私たちの生活は成り立たないし、とにかく決めるということが一番大事なことなのだ。

物事を決める現実的な方法は代表者を選出して、その者に自分の意見を代わりに述べてもらうことである。X高校で取られた代表者の選出方法は良かったと思う。全校生徒で決めるという決め方では意見が多く出すぎてまとまらない可能性がある。ただ、各クラスの中から代表者を選出する方法ではなく、自分はこうしたいと強い主張を持った人に意見を集約する方法を取った方がもっと良かったと思う。また、代表者にはある程度の決定の裁量権を与えているのも良いと思う。裁量権を多く持つ方がよりスムーズに物事を決定できる。それを持って話し合いを行わないといつまでたっても決まらない。しかし、代表者の裁量が大きすぎると多数意見を反映しなくなる恐れがあるし、代表者が勝手に決めてしまった様な印象を与えることもある。X高校では代表者たちの決定が多数意見と全く異なっているため、代表者たちの決定が生徒たちの全体の多数意見と違ってしまったことに納得していない人がいるという。では代表者はどのようにすれば良かったのだろうか？

私は、X高校の代表者が決めた結論はこれで良かったのだと思う。代表者には、物事を決めなければいけないと言う責任がある。どのくらい時間を掛けて慎重に決めれば良いかというプロセスの問題は事例の重要度によって考えれば良い。学校での「お金の使い道」という事例は、学校の経営や活動に深刻な影響を与えるなどということはないから比較的重要度は低いと思われる。代表者を選出した人は、選出した人の行動を含めて責任を持つべきであり、代表者として選出したからには、その人が決定してきたことに従う義務がある。選出したいような人がいなければ、自分が代表者になれば良いのだ。

一方で、代表者は賛同してくれた人の意見を違えるときには、きちんと議論の内容を説明して賛同者に理解を求める努力をするべきだ。X高校では話し合いの結論を説明する作業を行っていないのが問題だ。代表者による時間を掛けた話し合いによる結論が、逆に支持されることもある。三年生は学校生活が長いので、一年生より経験豊富であり、本を買うという選択は長い目で見ると、良かったということになるかも知れない。

結局、物事を決定するという作業は、私たちひとりひとりに関わってくる。人ごとではなく、個人が真摯に努力し、ひとりひとりが意識を高く持つことが必要なのだ。何が今起こっており、問題点は何かを知り、学び、関心を持つことが必要なのだ。

## 代表者の責任

横浜市立洋光台第一中学校三年 小林 萌々

中学生になると、クラスや委員会など多くの場面で代表者を決めていきます。代表者は、選ばれた人として、クラスや委員会の意見をまとめ、できる限りそれを推していく必要があるのではないのでしょうか。

今回の事例では、一年Y組の代表者として話し合いに参加したAさんが、Y組の意見ではなく他の代表者の意見に賛成してしまったことで、Y組の生徒たちのなかに納得ができない人がいるようです。私は、Aさんが他の代表者の意見に賛成したことは何も問題はないと思います。それもY組の生徒たちのことを考えたうえのことだからです。しかし、Aさんは話し合いのなかでY組の生徒たちと約束していた「運動用具を買いたい」という意見を提案し、それについてを代表者全員でしっかりと話し合ったかどうかが問題です。そこがY組の生徒にきちんと理解されていないと、Aさんが約束を破った、と思ってしまう原因になると思います。話し合いの結果、運動用具よりも本を買うことのほうが良いと決めれば、それは仕方ありません。しかし、AさんがY組の意見を提案しなかったり、それについて代表者たちでしっかりと話し合いもせず、代表者たちの意見だけで決めてしまったのならば、それは良い決め方ではないと思います。また、話し合いをしっかりと行ったのならば、本を買うことに決まるまでの過程をY組の生徒たちに理解してもらえるように説明をしたでしょうか。説明をしていないならば、生徒たちはよくわからないままで納得のいかない人が出る原因になるでしょう。

このように、代表者を決めて物事を決めたり話し合いを行うときには気をつけなければいけないことがあり、それが一つでも欠けてしまえば全員が納得するのは難しいでしょう。私が一番大切だと考えているのは、代表者たちで話し合いをした内容をみんなに説明をするということです。何の説明もなく、結論だけを報告する、今回の事例で言えば「運動用具を買うのではなく本を買うことになった」と報告されても納得のいかない人が出てくるのは当然のことでしょう。全員が納得するというのは難しいことですが、代表者として、なぜこういう結論になったのかをきちんと説明することが非常に大切だと思います。しかし、代表者を決めて何かをすることは大勢の人数で行うより楽です。例えば日本の政治を行う時です。日本には一億数千万人もの方がいます。この人数で政治を行うとしても、様々な意見や、気持ちが高ぶる人もでてきてしまい、無理があると思います。この時に、代表者を決めることにより日本にいる人全員で行うよりもスムーズに、冷静な状態で行うことができます。特に、政治やお金の使い道というのは簡単に決めることができないため、様々な意見を持った代表者たちが集まり丁寧に話し合う必要があると思います。

私は、保健委員会に所属しているのですが、委員会というのはクラスや学年、学校の代表であると思っています。なので、その活動一つひとつに責任を持ち、クラスや学年、学校全体から出た意見や提案はしっかりと話し合い、できる限り応えていきたいと思っています。

大勢の人で物事を決めたり何かを話し合う時は、代表者が必要になる場面もあります。代表者となるからには、自分の言動に責任を持つのは当然です。さらに、他の人たちにも納得してもらえるように努力をしなければならないと思います。ただし、代表者を選んだ側の人たちにも、その人を代表に選んだという責任があると思います。代表者にすべて任せて、仕事を押し付けてしまうのは間違っているの

はないでしょうか。Aさんの場合のように、みんなで出した意見と違う結論を代表者が決めてきた時、代表者に不満を言うのではなく、なぜ自分たちの意見が通らなかったのかを、代表者と一緒にみんなでもう一度考えてみる、ということも大切だと思います。

私たち学生は、これから先も代表者を決めるという場面はたくさんあると思います。そのときも、以上のことを考えて代表者を選んだり、代表者になるべきだと思います。